

「進んで学ぶ子ども」「思いやりのある子ども」「がんばる子ども」の育成

～あいさつをしよう・やくそくをまもろう・おもいやりをもとう～

泉佐野市立第三小学校



玄関スペースに配置

性の多様性を正しく理解する

～すべての子どもの自尊感情や自己肯定感を育てる～

校長 泉谷 一

12月、いよいよ師走を迎えます。今年の冬至は12月21日です。日没がどんどん早まり、子どもたちの帰宅時間に気を付けるなど、安全を確保していかなければなりません。

さて、先月の授業参観では多くの保護者の皆さまにご来校いただき、ありがとうございました。

授業では、低・中・高学年でLGBTs（エル・ジー・ビー・ティーズ）の性的少数者の人々を理解し、その人々の気持ちや権利を守ることができる子どもの育成をめざし人権教育を行いました。

本来、生まれた時の性別である「体の性」と、自分が自覚している「性自認」は、必ず一致するものではなく、性のあり方は「グラデーション」のように実に多様なものです。また、性的指向の『指向』は、『嗜好』（個々の人が特定の物事に対して持つ好みや趣味）とは異なり、本人が選択したり、あるいは修正できるものではないと理解することが適切だとも言われています。

統計では国民の5～8%程度がLGBTsであると推定され、本校の子どもたちにおきかえると、6人～10人の子どもがLGBTsに該当すると考えられます。

しかし、LGBTsの子どもたちは自分の性についての悩みや困っていることを、親や周囲の大人に相談することを躊躇し、最悪の場合は自殺を考えたり未遂となったりといった現実があります。

そのような不幸から子どもたちを守り、自尊感情や自己肯定感を高めながら『自分らしく生きていってもらいたい』と本校の教職員一同が考え、保護者の皆さまにも共有していただく機会として授業参観を行いました。当日は真剣に参観いただきましたことに、感謝しております。

【授業後の子どもたちの感想】

3年生「好きな色がクロとかピンクとかは、女の子だから男の子だからとか、かんけいないことがわかったし、自分が好きな色でいいことがわかった。」

3年生「男らしいとか女らしいとか、かんけいないな、とわかりました。本当の自分になれないからかんけいない、と思いました。」

4年生「性別を見た目ではんだんするんじゃなく、話し合ったり、ちがいについてを考えたりしたら相手の人もきずつかないからいいな、と思いました。」

4年生「見た目が女の子の人でも男の人でも、さべつをしないで、その人は女の子の人でもなく男の人でもなくて、自分らしく生きているから、その人の人生をひていしないようにする。」

6年生「動画を見て、LGBTQは、とてもほかの人に話にくいことなんだな、と思いました。勇気を出してカミングアウトしてくれた人がいたら、やさしく言ってあげて、ぜったい他の人には話さないように、気をつけたいです。」

6年生「自分がLGBTQの人に会ったら受け入れたいです。今では自分でせんげんしている人もいるけど、その人たちはすごい勇気があると思いました。」

私たちが感じている『ふつう』といった固定観念が本当に正しいものなのかを見つめ直すとともに、『無知であることの怖さ』も胸に留めながら、子どもたちの人権感覚を今後も保護者の皆さまとともに育てていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

